

国際平和推進事業

1 国際平和シンポジウムの開催

平成 7 年度（1995 年度）から、核兵器廃絶をテーマに市民の平和意識の啓発を図ることを目的として、広島市、本財団及び朝日新聞社の共催により国際平和シンポジウムを開催しています。平成 18 年度（2006 年度）からは広島・長崎の交互開催とし、令和 5 年度は広島市で開催しました。

期 日 令和 5 年 7 月 29 日（土）

会 場 広島国際会議場

テーマ 核兵器廃絶への道

～被爆地が核戦争の「歯止め」となるために～

内 容 ①基調講演

エレイン・ホワイト氏（元コスタリカ政府ジュネーブ代表部大使・核兵器禁止条約交渉の国連会議議長）

②パネル討論

【パネリスト】

えんどう けん
遠藤 乾氏（東京大学教授）

カン ジョンミン
姜 政 敏氏（元韓国原子力安全委員会委員長）

わたなべ ともこ
渡部 朋子氏（NPO 法人 ANT-Hiroshima 理事長）

③特別トーク

たかむら かおる
高村 薫氏（作家）

④被爆者との対話

きしだ ひろこ
岸田 弘子氏（被爆体験証言者）

てしま きくこ
豊嶋 起久子氏（被爆体験伝承者・ソプラノ歌手）

さとう ゆう
佐藤 優氏（広島市立大学 4 年生）

参加者 約 700 人（オンラインによる参加者約 400 人を含む。）



パネルディスカッションの様子

2 国連軍縮フェローズの受入れ

国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシッププログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生（フェローズ）を受け入れ、被爆の実相等に理解を深めてもらう研修を実施しています。

本財団では、昭和 58 年度（1983 年度）から受入れを実施しており、令和 5 年度は、24 か国の若手外



研修を受講するフェローズ一行

交官等 26 人が参加しました。今回の研修では、当財団理事長による講話や被爆体験講話の聴講、広島平和記念資料館、平和記念公園の見学、原爆死没者慰霊碑への参拝・献花等を行いました。

3 中国人民平和軍縮協会との交流

昭和 63 年度（1988 年度）に中国人民平和軍縮協会（平縮会）と交流を始めて以来、相互に訪問し、交流を続けています。平縮会は、昭和 60 年（1985 年）6 月に設立された中国最大の民間平和団体で、平成 14 年（2002 年）には国連 NGO に登録されています。

令和 5 年度は、同協会からの代表団を受け入れ、被爆の実相とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝える予定でしたが、同協会からの申出により中止となりました。

4 海外へのオンライン被爆体験証言

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムを利用した被爆体験証言を行っています。令和 5 年度は、8 か国 13 都市とライブで繋がり、15 回の被爆体験証言を行いました。

5 国外原爆写真展用資料の提供

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスターや映像資料等の貸出・提供を行っています。

令和 5 年度の貸出・提供実績

ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター

（単位：点、か国・地域）

区 分	点 数	国・地域数
日本語	0	0
英語	11	10
スペイン語	1	1
フランス語	1	1
ドイツ語	0	0
ロシア語	2	2
イタリア語	0	0
ハングル	0	0
中国語	0	0
計	15	14

映像資料等

（単位：点、か国・地域）

貸出・提供資料	点 数	国・地域数
映像資料（DVD）	35	13
ポスター用データ等	10	7
計	45	20

〔お申込み〕

広島平和記念資料館 啓発課まで

電話 (082) 541 - 5544 (受付時間 9 時～17 時)

〔休館日 (12 月 30 日及び 31 日) は受け付けておりません〕

6 ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、広島市と長崎市は共同で、海外において「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」を開催しています。

令和 5 年度は、英国のダラム市とベルファスト市において開催しました。

動員学徒として作業中に被爆し、犠牲となった中学生の腕章などの遺品や、黒焦げになった弁当箱のレプリカなど、実物資料 20 点のほか、広島・長崎の被爆の実相を説明したパネル 30 点などを展示しました。

ダラム市での原爆・平和展開催期間中には、本財団委嘱の被爆体験証言者である河野^{こうの}キヨ美^{きよみ}さんが、ベルファスト市での開催期間中には、八幡^{やはた}照子^{てるこ}さんがオンラインで自身の被爆体験を語られました。



原爆・平和展の様子(ダラム市)

● ダラム市

期 間 令和 5 年 6 月 7 日 (水) ～9 月 10 日 (日)

会 場 ダラム大学東洋博物館

内 容 被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験講話、被爆体験記の閲覧 等

入場者 約 8,200 人

● ベルファスト市

期 間 令和 6 年 1 月 8 日 (月) ～2 月 28 日 (水)

会 場 リネンホール

内 容 被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験講話、被爆体験記の閲覧 等

入場者 約 13,650 人

7 「広島・長崎講座」設置協力プログラム

被爆の実相や被爆者の核兵器廃絶への願いを若い世代に継承するため、国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図っています。同講座に認定した大学に対しては、認定時における教材の提供や被爆体験証言者への謝礼金の

負担など、講座の充実に向けた協力を行っています。令和 6 年 3 月末までに次のとおり国内 53、海外 25 の計 78 大学が「広島・長崎講座」を開設しています。

(国内) 東北芸術工科大学、中央学院大学、東京大学、東京外国語大学、^{けいせん}恵泉女学園大学、^{きりすときょう}国際基督教大学、^{せいけい}成蹊大学、^{だいとう}大東文化大学、東京経済大学、東京電機大学、明治学院大学、^{わこう}和光大学、早稲田大学、新潟大学、^{けいわ}敬和学園大学、富山大学、金沢大学、中部大学、名古屋学院大学、三重大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学、^{せいかわ}京都精華大学、京都芸術大学、^{ぶつきょう}佛教大学、^{りつめいかん}立命館大学、^{りゅうこく}龍谷大学、大阪大学、^{かんせい}関西学院大学、奈良県立大学、^{てづかやま}帝塚山大学、広島大学、^{ひじやま}広島市立大学、福山市立大学、エリザベト音楽大学、日本赤十字広島看護大学、比治山大学、広島経済大学、広島国際大学、広島修道大学、広島女学院大学、広島都市学園大学、広島文化学園大学、広島文教大学、愛媛大学、九州大学、北九州市立大学、長崎大学、長崎県立大学、^{ちんぜい}鎮西学院大学、長崎総合科学大学、熊本大学、大分県立芸術文化短期大学、鹿児島大学

(海外) ラスパンティ教育大学（アルゼンチン）、BHT ベルリン応用科学大学（ドイツ）、マレーシア科学大学、マラヤ大学（マレーシア）、^{キョンブク}慶北国立大学校人文大学（韓国）、国立台中科技大学（台湾）、ウクライナ国立キーウ工科大学（ウクライナ）、アメリカン大学、ボーリング・グリーン州立大学、カリフォルニア州立大学サクラメント校、カールトン大学、セントラルコネティカット州立大学、フィラデルフィア・コミュニティ・カレッジ、デュポール大学、イリノイ・ウェズリアン大学、インディアナ大学・パデュー大学インディアナポリス校、マサチューセッツ工科大学、ミネソタ州立大学ムーアヘッド校、マウントユニオン大学、ニュージャージー州立ラトガース大学、タフツ大学、アラバマ大学、シカゴ大学、ハワイ大学マノア校、インディアナポリス大学（以上アメリカ）

8 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修

広島市では、長崎市と共同で、ニューヨーク、ジュネーブ、ウィーンの国連施設に、被爆資料や写真パネルなどで構成する常設の原爆展を開設しています。国際政治や国際世論に大きな影響を及ぼす場所で開設している原爆展を通して、より効果的に被爆の実相を伝えるためには、案内役のガイドやガイドツアー担当職員に被爆の実相を共有してもらうことが不可欠です。このため、広島平和記念資料館では、



江波山気象館で解説を聞く参加者

国連 3 施設の見学ツアーガイドを広島に招へいし、被爆の実相について学んでもらう「国連見学ツアーガイドのヒロシマ研修」を平成 29 年度（2017 年度）から実施しています。7 回目となる令和 5 年度の研修は、国連ツアーガイド等 6 人を広島へ招へいし、被爆の実相に関する現地研修を、昨年 11 月 27 日から 12 月 1 日までの 5 日間、実施しました。

実施日 令和 5 年 11 月 27 日（月）～12 月 1 日（金）

- 内 容 ① 被爆体験講話の聴講
② 広島平和記念資料館、平和記念公園及び原爆ドームの見学
③ 被爆の実相等の講義の受講
④ 慰霊碑・被爆遺構めぐり
⑤ 国連各施設によるプレゼンテーション 等

受講者からは、「実際に広島に来たことで、原爆による被害をより鮮明に感じ取ることができた。」「被爆者の方からのメッセージや、広島で経験したことをツアーの参加者に伝え、核兵器廃絶の必要性をよりリアリティを伴って訴えたい。」等の感想が寄せられました。

9 平和首長会議の運営

平和首長会議は、世界の都市が国境を越えて連帯し、共に核兵器廃絶と世界恒久平和への道を切り開こうという広島・長崎両市の呼び掛けに賛同する都市（自治体）で構成する国連経済社会理事会登録 NGO です。

令和 5 年度は 136 都市が新たに加盟し、地域別では、アジア 60 都市、オセアニア 2 都市、アフリカ 1 都市、ヨーロッパ 68 都市、北アメリカ 5 都市でした（ラテンアメリカ・カリブ海地域からの加盟はなし）。

加盟都市の連帯の輪を更に広げるため、それぞれの加盟都市の平和の取組などを紹介する月刊メールマガジン

“Mayors for Peace News Flash” の発行のほか、平和首長会議ホームページ (<https://www.mayorsforpeace.org/>) やソーシャルメディアによる発信活動の充実などに取り組んでいます。



平和首長会議ホームページ

○ 地域別平和首長会議加盟都市数

（令和 6 年 8 月 1 日現在）

地 域 名	加盟都市数
アジア	39 か国・地域 3,361 都市
オセアニア	9 か国・地域 137 都市
アフリカ	49 か国・地域 439 都市
ヨーロッパ	41 か国・地域 3,389 都市
北アメリカ	3 か国・地域 341 都市
ラテンアメリカ・カリブ海地域	25 か国・地域 743 都市
計	166 か国・地域 8,410 都市

10 平和首長会議の活動展開

平和首長会議では、「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン」（略称：PX ビジョン）の三つの目標の下で、併せて策定した 2025 年までの行動計画に掲げる取組を進め、平和を構築していくための世界的な活動展開を図っています。

（１）第 11 回 NPT 再検討会議第 1 回準備委員会への出席

令和 5 年 7～8 月、オーストリア・ウィーン市で開催された第 11 回 NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議第 1 回準備委員会へ代表団を派遣し、国連・各国政府関係者等に対して、スピーチや個別の面会を通じて、核兵器のない平和な世界を願うヒロシマの心を伝え、具体的な核軍縮の進展を要請しました。また、会期中には平和首長会議原爆平和展を開催し、広島・長崎の被爆の実相や平和首長会議の取組について理解を深めてもらう機会を設けました。



第 11 回 NPT 再検討会議第 1 回準備委員会での松井会長によるスピーチ

（２）核兵器禁止条約第 2 回締約国会議への出席

令和 5 年 11～12 月、米国・ニューヨーク市で開催された核兵器禁止条約第 2 回締約国会議へ代表団を派遣し、国連・各国政府関係者等に、非人道的な結末をもたらす核兵器に対する強い懸念を訴えるとともに、締約国に対して、同条約の実効性を高めるための議論を進展させるよう要請し、具体的な核軍縮の進展を求めました。

また、平和首長会議及び ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の共同サイドイベントや、平和首長会議原爆平和展を開催し、核兵器のない平和な世界の実現に向けた気運を醸成しました。

（３）第 11 回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催

令和 5 年 10 月 18 日と 19 日の 2 日間、第 11 回目となる国内加盟都市会議総会を兵庫県姫路市で開催し、全国から 85 都市 135 人が出席しました。

同総会では、国内における平和首長会議の取組についての協議や意見交換、加盟都市の取組についての情報交換を行うとともに、核兵器廃絶に向けた日本政府に対する要請文の提出及び基礎自治体の平和文化振興に対する地方財政措置についての総務省に対する要望書の提出について審議・決定し、最後に総括文書を採用して閉会しました。



議案の審議

（４）「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開

平和首長会議では、「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動に取り組んでいます。

集まった署名を取りまとめ、核軍縮に関する国際会議への出席等の機会を捉えて、国連関係者に届けることにしています。令和 5 年度は、第 11 回 NPT 再検討会議第 1 回準備委員会への出席時に、広島なかつの高校生代表から中満国連事務次長兼軍縮担当上級代表へ署名の目録を手渡しました。



中満国連事務次長(中央)と高校生

（５）平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・二世の苗木の配布

平和首長会議では、希望する加盟都市に被爆に耐えて現在も生き続けるヒロシマ・ナガサキの被爆樹木の種や二世の苗木を配布しており、令和 5 年度は、国内の 15 都市、海外 3 か国の 15 都市に配布しました。

配布された被爆樹木の種や二世の苗木は、多くの市民が訪れる場所に植樹され、平和の象徴として大切に育てられるとともに、樹木を介して市民の平和意識を醸成するための取組に活用されています。

（６）次代を担う青少年を中心とした市民の平和意識の啓発

平和首長会議では、加盟都市における平和教育の充実を図ることを目的として、全加盟都市の 6 歳から 15 歳の子どもたちを対象とした「“平和なまち” 絵画コンテスト」を実施しています。

6 回目となる令和 5 年度のコンテストでは、世界 19 か国 115 都市で 4,766 作品の応募がありました。6 歳から 10 歳と 11 歳から 15 歳の 2 部門でそれぞれ最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、入選 3 点を選定し、各部門の最優秀賞作品から、愛媛県西予市の末光雛せいよ すえみつひなさん（8 歳）の作品を平和首長会議会長賞に選定しました。



平和首長会議会長賞受賞作品

平和教育の重要性についての認識を広めるため、この作品をデザインにしたクリアファイルを作成し、様々な場面で活用しています。

（７）海外加盟都市関係者の受入れ

平和首長会議の海外加盟都市関係者の広島訪問等の機会を捉え、被爆の実相と平和首長会議の取組について更に理解を深めてもらうとともに、各地域での加盟拡大や平和首長会議の活動の活性化に向けた協力を依頼し、体制の強化に努めました。令和 5 年 8 月 6 日の平和記念式典に海外役員都市を招待し、クロアチアのビオグラード・ナ・モル市関係者が参列しました。

1 1 平和首長会議インターンシップ

平和首長会議の国内外の加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議の取組に対する理解を深めてもらうことにより、各加盟都市との連携強化を図りました。令和 5 年度は海外加盟都市から 2 名、国内加盟都市から 19 名を招へいしました。

1 2 平和教育ウェビナーの開催

平和首長会議の加盟都市等の青少年が、被爆・戦争体験と平和への願いを受け継いで行う取組を発表し、意見交換するオンラインセミナーを開催しました。

令和 5 年度のウェビナーでは、7 都市・団体から 9 人の青少年が参加し、それぞれの平和活動や平和への思いについて発表するとともに、意見交換を行いました。



平和教育ウェビナー

ウェビナーの様子は YouTube で同時配信するとともに、後日、配信した動画を平和首長会議ウェブサイトで公開し、多くの方々に視聴していただきました。

1 3 NPT再検討会議等への高校生派遣事業

令和 5 年 7～8 月、オーストリア・ウィーン市で開催された第 11 回 NPT 再検討会議第 1 回準備委員会に、核兵器廃絶の実現に向けて様々な平和活動に取り組む広島の高校生 8 人を派遣し、準備委員会のサイドイベントとして開催する平和首長会議ユースフォーラムでの発表や意見交換、会議傍聴や国連関係者への署名の手交、地元の青少年との交流などを通じ、次代の平和活動を担う青少年の育成を図りました。

◇ 核実験に対する広島市の抗議書簡・抗議電回数表（暦年別）

令和 6 年 3 月末現在

区分 年	米 国		ロシア		フランス		中 国		英 国		インド		パキスタン		北朝鮮		計	
	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計	回数	累計
1968	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
1969	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
1970	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
1971	1	2	0	0	3	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6	10
1972	2	4	1	1	1	6	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	6	16
1973	0	4	1	2	7	13	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	9	25
1974	3	7	4	6	9	22	1	7	1	1	1	1	0	0	0	0	19	44
1975	13	20	5	11	2	24	1	8	0	1	0	1	0	0	0	0	21	65
1976	10	30	9	20	3	27	4	12	1	2	0	1	0	0	0	0	27	92
1977	11	41	9	29	2	29	1	13	0	2	0	1	0	0	0	0	23	115
1978	9	50	21	50	2	31	3	16	1	3	0	1	0	0	0	0	36	151
1979	12	62	23	73	1	32	0	16	1	4	0	1	0	0	0	0	37	188
1980	14	76	14	87	6	38	1	17	3	7	0	1	0	0	0	0	38	226
1981	9	85	8	95	3	41	0	17	0	7	0	1	0	0	0	0	20	246
1982	11	96	9	104	5	46	0	17	1	8	0	1	0	0	0	0	26	272
1983	12	108	12	116	7	53	1	18	1	9	0	1	0	0	0	0	33	305
1984	13	121	16	132	7	60	1	19	2	11	0	1	0	0	0	0	39	344
1985	14	135	6	138	8	68	0	19	1	12	0	1	0	0	0	0	29	373
1986	13	148	0	138	7	75	0	19	1	13	0	1	0	0	0	0	21	394
1987	14	162	20	158	8	83	1	20	1	14	0	1	0	0	0	0	44	438
1988	10	172	15	173	8	91	1	21	0	14	0	1	0	0	0	0	34	472
1989	11	183	7	180	8	99	0	21	1	15	0	1	0	0	0	0	27	499
1990	7	190	1	181	6	105	0	21	1	16	0	1	0	0	0	0	15	514
1991	6	196	0	181	6	111	0	21	1	17	0	1	0	0	0	0	13	527
1992	6	202	0	181	0	111	2	23	0	17	0	1	0	0	0	0	8	535
1993	0	202	0	181	0	111	1	24	0	17	0	1	0	0	0	0	1	536
1994	0	202	0	181	0	111	2	26	0	17	0	1	0	0	0	0	2	538
1995	0	202	0	181	6	117	2	28	0	17	0	1	0	0	0	0	8	546

1996	0	202	0	181	1	118	2	30	0	17	0	1	0	0	0	0	3	549
1997	5	207	1	182	0	118	0	30	0	17	0	1	0	0	0	0	6	555
1998	5	212	2	184	0	118	0	30	0	17	2	3	2	2	0	0	11	566
1999	4	216	0	184	0	118	0	30	0	17	0	3	0	2	0	0	4	570
2000	5	221	3	187	0	118	0	30	0	17	0	3	0	2	0	0	8	578
2001	2	223	0	187	0	118	0	30	0	17	0	3	0	2	0	0	2	580
2002	4	227	0	187	0	118	0	30	1	18	0	3	0	2	0	0	5	585
2003	1	228	0	187	0	118	0	30	0	18	0	3	0	2	0	0	1	586
2004	1	229	1	188	0	118	0	30	0	18	0	3	0	2	0	0	2	588
2005	0	229	0	188	0	118	0	30	0	18	0	3	0	2	0	0	0	588
2006	2	231	0	188	0	118	0	30	1	19	0	3	0	2	2	2	5	593
2007	0	231	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	2	0	593
2008	0	231	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	2	0	593
2009	0	231	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	1	3	1	594
2010	1	232	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	3	1	595
2011	2	234	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	3	2	597
2012	5	239	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	3	5	602
2013	3	242	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	1	4	4	606
2014	1	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	4	1	607
2015	0	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	4	0	607
2016	0	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	2	6	2	609
2017	0	243	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	1	7	1	610
2018	1	244	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	1	611
2019	1	245	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	1	612
2020	0	245	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	0	612
2021	1	246	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	1	613
2022	1	247	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	1	614
2023	0	247	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	0	614
2024	1	248	0	188	0	118	0	30	0	19	0	3	0	2	0	7	0	615
計	248		188		118		30		19		3		2		7		615	

(注) ①ロシアの通算回数には、旧ソ連の 181 回を含みます。

②米国に対する抗議には、核実験の予告に対する 1 回（昭和 59 年（1984 年）5 月 31 日分）、臨
界前核実験実施表明に対する 1 回（平成 9 年（1997 年）4 月 10 日分）及び臨界前核実験実施予
告に対する 5 回（平成 9 年 6 月 28 日、平成 9 年 8 月 28 日、平成 10 年（1998 年）3 月 6 日、
平成 10 年 9 月 4 日、平成 11 年（1999 年）9 月 29 日分）を含みます。

③フランスに対する抗議には、核実験の再開表明に対する 1 回（平成 7 年（1995 年）6 月 15 日
分）を含みます。

④北朝鮮に対する抗議には、核実験の予告に対する 1 回（平成 18 年（2006 年）10 月 5 日分）
を含みます。

⑤平成 18 年のイギリスの臨界前核実験は、米国と共同で行われました。